



これら海辺の町の沖合に浮かぶのが、忽那諸島。有人島の興居島、釣島、睦月島、野忽那島、中島、怒和島、津和地島、二神島、安居島は、豊かな自然が魅力で、トライアスロン大会などのスポーツイベントも開催されています。

一方、松山の南部に位置し、四国遍路の松山側入口にあたる久谷地区は、浄瑠璃寺や八坂寺、接待所として再生された旧遍路宿の「坂本屋」など、お遍路さんを優しく迎えるおもてなし文化が今も息づいています。

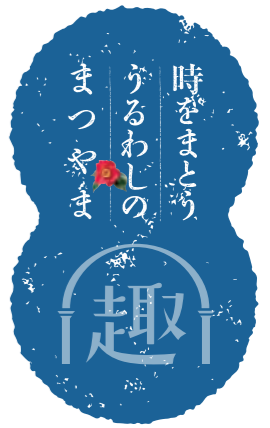
高縄山から瀬戸内海に向けて広がる北条地域は、約800年前に伊予豪族・河野氏が拠点をおいた場所。水軍を指揮した河野氏は、源平合戦で源氏につき、元寇の際にも活躍しました。河野氏が創建した善応寺や海城があった鹿島など、その足跡は随所に。

されています。現在は年4回、水産市場のイベント開催日に気軽に買い物ができる、市民の台所として愛されています。三津浜にはレトロな建物や倉庫も多く、三津浜内港を結ぶ「三津の渡し」も、室町時代から今に受け継がれています。

多くの人を惹きつける、ゆかしい風情に満ちあふれた松山市。それを色濃く感じられる地域があります。松山市の海の玄関口として栄えた歴史を持つ三津浜、古くは「風早」と呼ばれた北条、そして瀬戸内海に浮かぶ忽那諸島。さらには久谷地区をはじめ市内に広がる遍路道は、懐かしさと優しさが溢れています。三津浜は、松山の名物・名所づくしの民謡「伊予節」に唄い込まれている「三津の朝市」の開催場所。目の前の海で水揚げされた魚介類を取引する朝市は、室町時代に始まったと

まち歩きで出会うのは
懐かしさを秘めた風物

おもてなしの心



Matsuyama features destinations that preserve the flavor and feel of days of old, from the city's districts of Hōjō and Mitsu, with its history of flourishing as the city's gateway to the sea, to the outlying islands floating in the Seto Inland Sea. The city is also home to 8 temples serving as fudasho stops along the Shikoku Henro pilgrimage.

6. トライアスロン中島大会

2020年で35回目の開催を迎える歴史あるスポーツイベント。島民らのおもてなしや応援も好評で、リピート参加する鉄人も多数。
■問 / 089-997-1840 (トライアスロン中島大会実行委員会)

5. 高縄山・腰折山

標高986mの高縄山と標高214mの腰折山は、ともに自然の宝庫。腰折山の登山道にはエヒメアマヤマイヨスミレが自生しており、両山ともに瀬戸内海を一望できる眺望も自慢。
■問 / 089-948-6318 (松山市空港港湾課)

4. 三津浜・三津の渡し

市道高浜2号線の一部として、三津と港山の間、約80mを結ぶ市営渡船。自転車の乗船も可。
■問 / 089-951-2149 (松山港務所)
089-948-6318 (松山市空港港湾課)
■営 / 7:00~19:00、無休(荒天などにより運休する場合あり)

3. 坂本屋

明治末期から大正初期に建てられた遍路宿を地域住民らが再生し、運営。3~11月の土・日曜などには、地元有志によるお接待が行われている。年間を通してさまざまなイベントもあり。
■住 / 松山市窪野町甲2146

2. 鹿島

北条沖合400mのところに浮かぶ周囲1.5kmの小さな島。春は桜、夏は海水浴、冬は釣りや四季折々の楽しみがあり、島の名前の由来でもある鹿の姿を楽しめる。
■問 / 089-948-6556 (松山市観光・国際交流課)

1. 忽那諸島

松山沖に浮かぶ30以上の島々から成る忽那諸島には、中島や興居島など有人島9島が含まれている。海水浴やマリンスポーツ、釣りが楽しめ、新鮮な魚料理やかんきつ類も名物となっている。



四国遍路・松山八ヶ寺とは

四国遍路は弘法大師空海が開いた巡礼の道。四国全域に点在する空海ゆかりの88の札所を巡ることで、それぞれのご利益を願う折りの道でもある。松山市にはお遍路さんの始祖と呼ばれる衛門三郎ゆかりの石手寺など四国の自治体で最多となる八ヶ寺が集中。市内の札所を巡って、お遍路を体験しませんか。

